

宇佐八幡宮の参道口。



霊泉「金殿井」。

ボランティアグループが設置した順路標識。

参道のカーブに再び「宇佐山城址」の看板。ここが登城口です。木立ちの中へ踏み込みますが、道らしきものはなく、ヒールテープを目印に進むと「順路」の道標が見つかります。ここから踏み跡程度の道となり、急勾配の斜面をつら折りにひたすら登ります。



「宇佐山城址」の看板。木立ちの中へ。

御足形、金殿井：

宇佐八幡宮の参道をゆく



史跡近江大津宮錦織遺跡第1地点。

宇佐山の中腹にある宇佐八幡宮。



本殿に納められた土塙。

豊平稲荷の祠がある参道の分岐に「宇佐山城址」の大きな看板が右を指していますが、まずはまっすぐ進んで宇佐八幡宮を参拝。本殿の横には、子どもの成長、健康を祈願した土塙が納められています。宇佐山城跡の登城口へは本殿右奥のもうひとつの参道をくだります。

二の丸の東斜面にも石垣を発見…。



近江大津宮錦織遺跡

住宅街に点在する内裏の遺構

京阪近江神宮前駅から山手へ出て、バス通りの県道を北へ。このあたり一帯は近江大津宮錦織におおつのみやにしこおり遺跡で、住宅街の中に発掘跡を示す広場が点在しています。しばらく行くと近江神宮。橋の手前を左に折れ、柳川に沿って西へ進みます。

宇佐八幡宮を参拝

「むし八幡」のシンボルは鳩？



山を登りつめるときなり山頂直下の斜面に石垣が出現。400年あまりの風雪に耐えた石は、往時の息吹きをしのばせている。

宇佐山

（うさやま）

近江大津宮の史跡をたどり
中世の城跡をめざす歴史探訪。

初詣での参拝客でにぎわう正月の近江神宮。その背後にそびえる山が標高335mの宇佐山です。この山が、戦国時代の名だたる武将たちが足跡を残した城跡であることはあまり知られていません。

宇佐山城を築いたのは森可成（森蘭丸の父）。天下布武をめざす織田信長が、元龜争乱（1570〜72年）の際、比叡山延暦寺の監視や浅井長政・朝倉義景の連合軍に対抗する拠点として築かせたものです。その後、この城を任されたのが明智光秀。比叡山焼き討ちの後、光秀は坂本城へ移り、宇佐山城は廃城となりました。現在、山頂はテレビ中継基地になっていますが、本丸、二の丸、三の丸など曲輪跡が明瞭で、周辺には野面積みの古い石垣、堀跡なども見られます。

宇佐山城跡へは山の中腹にある宇佐八幡宮からアプローチします。宇佐八幡宮は、源頼義が創建した由緒ある神社で、子どもの守り神「むし八幡」として親しまれています。登城はこの参道から木立ちの中へ入り、急勾配の道を登ります。山道は踏み跡程度でわかりにくい箇所もありますが、地元のボランティアグループ「いいね・滋賀」が設置した順路標識を目印に進むといいでしょう。

ひとくちメモ

宇佐八幡宮の「御足形」で 新しい年の「健脚」を祈願！

宇佐八幡宮の参道にある「御足形（おあしがた）」は、源頼義が八幡宮創建の検分の際、この岩に神鳩が現れ、建立の地へ導いたといわれています。この岩の踏み跡がご神示の跡で、多くの人が健脚を祈り、靈験を授かったとされています。山登りを愛する皆さんも、ここはしっかりお参りしておきましょう。



御足形

A C C E S S & M A P



●京阪「近江神宮前」駅、京阪バス「錦織町」バス停から宇佐八幡宮まで徒歩約30分。

▶参考WEB
ボランティアグループ「いいね・滋賀」 <http://www.cable-net.ne.jp/user/kidlife/>
宇佐山城跡周辺の遺跡、古墳など、散策に役立つ情報が満載です。

※山行の際は、国土地理院発行の正確な地図（2万5千分1地形図など）をご使用ください。

※標高は国土地理院地形図の数値を採用。

宇佐山城跡 散策マップ



◆山行日/09年11月12日 ◆天候/晴れのち曇り
◆歩行距離/約3km ◆総時間/約3時間（休憩・散策含む）
◆難易度★★（一般向け）

宇佐山城跡の 縄張りをめぐる

いきなり石垣が出現！



宇佐山山頂。本丸跡はテレビ中継塔が占める。